

この紙のゴール：名詞のうしろに説明の節を足す語順に慣れ、「名詞＋S＋V」の省略が読める

実力を伸ばすクラス 偏差値のめやす 50～60程度 高校範囲の6つの型を通します (確認は4択)

気づき AとB、和訳はほぼ同じ「母の作るカレーは世界一だ」。何が違う？ (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	The curry my mother makes is the best in the world.
B	My mother makes the best curry in the world.

Bは「母」の話、Aは「カレー」の話。Aの主語は The curry my mother makes という大きな名詞のかたまりで、日本語は「母の作る→カレー」と前から、英語は名詞のあとから説明を足します。ここには関係代名詞 that が隠れていて、会話では何も置かない形がいちばんふつう—「名詞＋S＋V」と並んだら省略の合図です。

整理 この単元で扱う6つの型 (先行詞のうしろに節を足す)

形	作り方	表すこと	例文
主格 who (人)	人 + who + V	～する人	I have a friend who can ski. スキーができる友だちがいる。
主格 which (物)	物 + which / that + V	～する物	That is the dog which bit me. あれがぼくをかんだ犬だ。
目的格 (省略できる)	名詞 + (that) + S + V	SがVする～	The bag I use was a present. 使っているかばんは贈り物だった。
whose (～の)	名詞 + whose + 名詞	「～の」を作る	I met a girl whose cat is fat. ネコが太っている女の子に会った。
前置詞＋関係代名詞	名詞 + in which など	前置詞ごと前に出す	This is the team for which I play. これが、ぼくの所属するチームだ。
非制限 (コンマつき)	名詞, which / who ～	補足をひとこと足す	I read his book, which is fun. 彼の本を読んだ。楽しい1冊だ。

読みのログゼは2つ—「名詞＋S＋Vは省略の合図」「関係詞の節はうしろから前の名詞へ」。書くときは説明したい名詞 (先行詞) を先に決めて、直後に節を置きます。落とし穴も2つ：主格は省略できない (省略できるのは目的格だけ) / コンマのあとに that は置けない。

確認 () 内から正しいものを選ぼう。 知識・技能

- (1) The bus (who / which / whose / what) goes to the stadium is full on game days.
- (2) We stayed at a hotel (whose / who / which / what) was built over a hundred years ago.
- (3) The cookies (that / who / whose / what) my sister bakes always disappear in a day.
- (4) I sat next to a student (who / which / that / whose) name I didn't know.
- (5) This is the house (which / in which / who / what) my grandfather grew up.

関係代名詞の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	which	先行詞 The bus は物。文全体の動詞は is。
(2)	which	先行詞 a hotel は物。建物でも「人が住むから who」とはしない。
(3)	that	うしろが S+V = 目的格。実は何も入れないのがいちばんふつう。
(4)	whose	「その人の名前」= whose。うしろに名詞 (name) が続くのが目印。
(5)	in which	grew up in の in ごと前に出た形。which だけだと in の置き場がない。

つまずき① 主格の関係代名詞を省略してしまう

省略できるのは**目的格**だけ。主格を省略すると、1つの文に動詞が2つ並んで壊れます。「**名詞+S+V**」(省略OK)と「**名詞+V**」(主格=省略不可)を並べて見せると直りが速くなります。

× I have a cousin plays the drums in a band. → ○ I have a cousin who plays the drums in a band.
a cousin のうしろがいきなり動詞=主格の節。主格の who は省略できない。

つまずき② 節の中に代名詞を残す

関係代名詞は**節の中の代名詞が前に出た姿**です。it が which になって前に出たのに、元の席にもう一度 it を書くと席が二重になります。日本語の「それを」が残る、和訳経由の誤りです。

× This is the bag which I bought it last week. → ○ This is the bag which I bought last week.
which が it の席ごと前に出ている。bought のうしろは空けておく。

つまずき③ 節の中の動詞の数をまちがえる

主格の関係代名詞のうしろの動詞は、**先行詞に合わせて**形を決めます。直前の名詞まで戻って確かめる習慣を一先行詞と節が離れる長い文ほど起きやすい誤りです。

× I know some people who likes the singer very much. → ○ I know some people who like the singer very much.
先行詞は some people = 複数。who のうしろの動詞は like。

つまずき④ 「物に whose は使えない」と思い込む

whose は**先行詞が物でも使えます**(a house whose windows are all broken)。発音が同じ who's (= who is) との混同にも注意—whose のうしろには**名詞**が続きます。

× We saw a house which windows were all broken. → ○ We saw a house whose windows were all broken.
「その家の窓」= ~の、なので whose。which だと windows とつながらない。

つまずき⑤ コンマのあとに that を置く

コンマつき(非制限用法)は「ひとこと補足」の形で、**that だけは使えません**(which / who / whose は使えます)。コンマの有無は**意味の違い**で、コンマなしは「複数の中から特定する」読みを生みます(小テスト大問4で扱います)。

× I lent him my favorite novel, that I bought last month. → ○ I lent him my favorite novel, which I bought last month.
コンマのあとは which。that はコンマつきでは使えない。

授業のひとつ 導入はカレーの2文だけで十分です。そのあと1分、教科書や身の回りから「**名詞+S+V**」のかたまり探しをさせてください—見つけた数だけ「省略の目」が育ちます。

